

中学部研究部会

- 1 中学部の研究について
- 2 年間計画
- 3 普通学級の日課表
- 4 中学部の作業学習について
- 5 作業学習(紙工班)学習指導案
- 6 まとめと今後の課題

1 中学部の研究について

(1) 研究のねらい

本校中学部の実態として、障害の重度化や多様化などにより生徒一人一人が持つ課題も多様化してきており、それに応じた指導・支援をすることが一層求められている。本校の中学部では領域・教科を合わせた指導として作業学習を取り入れているが、これまでの2年間で個別の指導計画から課題を読み取って活用する方法や、中学部の作業学習のねらいなどについて検討してきた。その中で、生徒一人一人が得意なこと・好きなことを生かした活動を考えたり、特性や能力に応じたグループ作りをして作業を進めたりすることは、多様化に対応した授業作りを意識したものとなるのではないかとという一定の結論に達した。

そこで、これまでの研究の成果を踏まえたいうえで今年度はよりねらいを明確にし、多様化する生徒の課題に応じた分かりやすい授業作りを研究していきたいと考えている。

中学部研究テーマ「作業学習から探る生徒に分かりやすい授業」
～多様化する生徒の課題に応えるために～

(2) 研究の進め方

①授業研究会について

- ・部内研究会と全校研究会を実施し、各回1班ずつ授業を展開して講師の指導を受ける。(昨年度の実績から、研究会での対象班を1つに絞ることにより授業全体を通してより深い指導と協議が望める)
- ・各作業班から1名事例となる生徒をあげ、個別の指導計画を基礎資料として活用する。また、WISC-IVも補助資料として活用する。
- ・指導案には評価のポイントを記入し、どのようなねらいを持って指導するのか分かるようにする。

②実践報告集について

- ・1年間で取り組んだ指導内容や改善した点などを班ごとにまとめ、代表する作業班の学習指導案と併せて記載する。

③生徒の情報交換について

- ・作業班ごと作業学習について話し合う時間を設け、積極的に情報交換や意見交換を行ったり、小研修会を実施したりして指導内容の充実を図る。
- ・作業学習の様子をビデオで撮影し、研究日に視聴する。

2 年間計画

月日(曜日)	研究の内容	
10月15日(木)	部内研究会	展開授業(カレンダー班)
10月30日(金)	全校研究会	展開授業(紙工班)

千葉県立八千代特別支援学校 教頭 荻野政仁先生を招聘し、ご指導いただく。

3 普通学級の日課表

<日課表①>

	月	火	水	木	金
9:00	日常生活の指導(着替え・清掃・係活動・朝の会等) 保健体育(朝の運動)、自立活動				
10:05	課題学習 (国語、数学、自立活動等を合わせた指導)				生活単元 学習 総合的な 学習の時間
11:00	生活単元学習		保健体育		
11:50	給 食				
13:00	音楽/ 自立活動	生活単元 学習 総合的な 学習の時間	音楽	生活単元 学習 総合的な 学習の時間	学級活動
13:50	日常生活の指導(着替え・係活動・帰りの会等)				
14:30					

※生活単元学習と総合的な学習の時間は、時期によりまとめて実施する。

<日課表②>

	月	火	水	木	金
9:00	日常生活の指導(着替え・清掃・係活動・朝の会等) 保健体育(朝の運動)、自立活動				
10:05	作業学習 (木工 紙工 園芸 カレンダー)				
11:50	給 食				
13:00	課題学習 (国語、数学、自立活動等を 合わせた指導)		音楽	生活単元 学習 総合的な 学習の時間	学級活動
13:50	日常生活の指導(着替え・係活動・帰りの会等)				
14:30					

※作業学習期間 9月下旬～11月中旬、1月上旬～2月下旬

4 中学部の作業学習について

平成27年度中学部教育課程より

<ねらい>

『働く力の基となる基礎的な知識・技能・態度を身につける。』

- ・自分の分担が分かり、見通しを持って作業に取り組み、最後までやろうとする態度を育てる。
- ・活動の中で、友達と協力する態度を育てる。
- ・自分で考えて判断したり、工夫したりする力を育てる。
- ・販売会や報告会に向けての活動をして、作る喜びや成就感・達成感を味わうことができる。
- ・道具の正しい取り扱い方を知り、安全に使用することができる。
- ・巧緻性や調整力を高め、細かな手指の作業から、身体全体を使った作業までいろいろな動きがスムーズに行えるようにする。

<作業班の種類>

- ・園芸班（花の育成、鉢の製作）、カレンダー班（カレンダーの製作）、紙工班（牛乳パックを原料にした紙製品の製作）、木工班（棚、木製玩具の製作）の4班で構成する。

<作業班編成>

- ・3年間にできるだけ多くの作業班を経験することを基本とする。（生徒の実態によってはこの限りではない。）
- ・生徒の適性・実態・本人の希望・卒業後の生活など幅広い視点を考慮して所属班を決める。また、保護者に所属希望のアンケートは実施しない。調整の手順として、担任→学年→作業係→各作業班チーフ→（学年）→学部として、最終的に学部で決定する。
- ・職員については前年度の経験者がいること、初任者が重ならないこと、男女のバランス等を考慮する。

<作業期間>

- ・とみよう祭での販売活動に向けて 9月29日から11月18日まで
- ・校外販売会に向けて 1月12日から 2月18日まで

5 作業学習（紙工班）学習指導案

日 時 平成27年10月30日（金）10時05分～11時50分
授業場所 中学部2年2組、2年3組
指導者 T1、T2、T3、T4、T5、S1

1 単元名 「『とみよう祭』に向けて新製品のすしマグネットとうちわを作り、販売しよう」

2 学習集団について

紙工班は、普通学級の1年生5名、2年生3名、3年生5名の計13名（男9名、女4名）の生徒で構成されている。自分の担当する作業内容が分かり準備から後片付けまで一人でできる生徒、言葉による支援を必要とするが指示されたことに取り組むことができる生徒、個別の対応が必要な生徒、視覚的な配慮を受けながら教師と一緒に取り組むことができる生徒等、実態は幅広いものがある。

本校中学部の作業学習のねらいは、「働く力の基となる基礎的な知識・技能・態度を身につける」ことである。具体的には、①自分の分担が分かり、見通しを持って作業に取り組み、最後までやろうとする態度を育てる ②活動の中で、友達と協力する態度を育てる ③自分で考えて判断したり、工夫したりする力を育てる ④販売会や報告会に向けての活動の中で、作る喜びや成就感・達成感を味わうことができる 等が挙げられる。作業班として、紙工班、木工班、園芸班、カレンダー班の4班で展開し、1年生から3年生の縦割りのグループで編成している。生徒は1年ごとに所属する作業班を変え、3年間でできるだけ多くの種類の作業を経験することを基本としている。

今年度の紙工班は、作業内容により大きく3つのグループに分けて活動する。その際、縦割りの学習集団にして他学年と一緒に協力して活動できるように配慮した。グループは、個別の教育支援計画や個別の指導計画、1学期の学習の様子を参考にして、実際の体験や生徒の力が発揮できる活動を考慮して編成した。全員が初めて紙工作業を経験するが、みんなで協力して製品を製作することにより、作る喜びや成就感・達成感を味わうことができるようになってほしいと考えている。

3 単元について

〈全校の取り組みについて〉

本単元は、11月14日（土）に開催する『とみよう祭』に向けて、全校の児童生徒が一丸となって取り組もうというものである。今年度は、小学部は体育館ステージで舞台発表を行い、中・高等部では作業班の製品販売会を実施する。また、作品展示をし、日頃の学習成果を発表して、地域の方に本校を理解していただく機会とする。単元の前半には全校集会『とみよう祭だあ集会』を行い、ダンスを踊ったり、昨年度のビデオを見たりして雰囲気盛り上げていく。集会は児童生徒会役員が実行委員となって進め、テーマの決定や集会、オープニングやフィナーレの企画運営を担当する。当日は、保護者や地域の人々など日頃お世話になっている人たちを感謝の気持ちをもって迎え、各学部が活動に精一杯取り組み、満足感・達成感のある一日にしてほしい。

〈学部の取り組みについて〉

11月の『とみよう祭』に向けての単元である。当日は中学部2階ホール及び1年2・3組教室を会場として、4班が協力して商店街『とみようストリート』を作り、製品を販売したり、ゲームコーナーや体験コーナーを運営したりして、学部全体で『とみよう祭』に向けて雰囲気を盛り上げていく。

〈紙工班の取組について〉～新製品のすしマグネット&うちわの販売～

昨年のはじめは『イオン販売会』（2月実施）に向けて新製品の開発を行った。具体的には①すしマグネット②うちわなどの製作で、より多くの生徒が最終的な加工に関わることにより、「できた」という達成感や作業への見通しを持つことができた。これらの成果を基にして、今年度は学校祭である『とみよう祭』で、校内では初めて新製品を販売したい。うちわは室内のインテリアとして飾れるような工芸品として作ることにした。

作業を進めるに当たってはまず、今年度最初の作業なので、単元の始めに導入として、全ての生徒が全ての工程を体験し、紙作りの全体像が理解できるようにする。その後、生徒の希望も聞きながら生徒一人一人のニーズに合った作業工程で製品製作を行う。作業により大きく3つのグループに分かれ、①紙の原料とな

るパルプを牛乳パックから作り、型入れ、成型をして、最後に色塗り、マグネットを付けて完成する『すしグループ』、②パルプをミキサーにかけてパルプ液を作る『ミキサーグループ』、③パルプ液をすいて紙にする『紙すきグループ』に分かれて取り組む。

①『すしグループ』では、パルプ液を使って型詰めをして、すしの模型を作る工程を担当する。今年度はミキサーを昨年度より1台増やした2台で取り組み、同じ作業時間に進められる作業量を増やすようにした。また、ラミネートはがし、パルプ液作り、型詰め3工程を用意し、生徒の特性に合わせて取り組めるようにしている。一人一人が主体的に関わることのできる作業を目指していきたい。

②『ミキサーグループ』では、昨年度4台であったミキサーを3台にして、昨年度とほぼ同じ量の仕事を時間いっぱいできるようにする。そして、紙すきグループにできるだけ多くのパルプ液を渡せるように集中してミキサーがけに取り組む。また、分かりやすいように手順表を用意して、自分から取りかかり、最初から最後まで作業を進められるようにしたいと考えている。

③『紙すきグループ』では、紙すきを中心とした工程を担当し、気泡や不均一な厚さ、ゴミの混入などによる不良品が出ないように、細かな部分にまで気を配って取り組む姿勢を育てたい。そのために、点検する項目を明確にし、一人一人が自ら点検することができるようにしていきたい。また、紙工班の中での最終工程であることから、友達の取り組みを無駄にしないようにするという責任感も育てたいと考えている。

各グループでは製品を作るにあたって、友達と協力して作りながら、代表の生徒ができた製品を次のグループに届けたり、材料をもらいに行ったりすることにより、グループ全体でかかわりの場面をできるだけ多く作っていきたい。

グループ編成は、生徒が得意な活動や興味ある活動を工程とし、自信をもって取り組めるように配慮する。毎日同じ仕事を繰り返し行う中で、生徒が見通しを持って取り組めるようになってほしい。また、それぞれのグループでは、作業量を確保して生徒が時間いっぱい仕事に取り組めるように配慮する。

友達や教師と協力をしながら準備や後片付けができたり、教師への報告や相談などのやりとりをしたりすることができるような場面を積極的に設定していきたい。また、その日の目安となる作業量を具体的に示すことで、見通しが持て、達成感を味わうことができるようにしていきたい。『とみよう祭』に向けて、見通しを持って取り組みやすいように日程表を作成したり、出来高表を設定したりする。1日の作業の終わりには、個々の生徒の製作数を確認し、翌日への意欲につなげ、とみよう祭に向けて班全体で意欲を高めていくようにする。当日は、『ハニ紙屋』という店を出して、そこで自分達で作った製品を販売したり、ゲームコーナーでお客とのやりとりをしたりする中で、満足感や達成感を存分に味わってほしいと願っている。

本時は、製品作りの最終段階に近づき、『とみよう祭』に向けて、作業に一段と熱が入り、頑張っている生徒の姿が多く見られているところである。

4 単元の目標

- ・『とみよう祭』での販売を目標にして、みんなで協力してたくさん紙製品(すしマグネット、うちわ)を作ることができる。
- ・自分の分担の仕事を理解して、進んで作業に取り組むことができる。

5 指導計画

(1) 計画を進める上での工夫

〈場の設定〉

- ・前期作業(とみよう祭単元)の前に倉庫を整理し、道具の配置を工夫し、生徒が進んで作業に取り組める状況をつくった。
- ・生徒全員が一体感を持てるように、自分で作ったものを次の工程に運ぶようにした。また、その日に作った製品を完成品ラックに陳列し、出来高や在庫数をみんなで確認し合えるようにした。

〈活動内容〉

- ・単元の最初は、作業の導入として全ての生徒が全ての工程を体験し、紙作りの全体の流れが理解できるようにした。
- ・生徒が得意な活動や興味ある活動を工程とし、自信を持って取り組めるようにした。
- ・毎日同じ仕事をし、繰り返すことにより見通しが持てるようにした。

- ・生徒が時間いっぱい仕事に取り組めるように作業量（十分な素材）を確保した。
（教材教具）
- ・自分から作業に取りかかり、進められるように仕事の「手順表」を用意した。
- ・扱いやすい道具類を使用し、安全に作業ができるようにした。
- ・新製品の開発（うちわ）にあたっては、インターネットで情報の収集をした。
（単元を盛り上げる工夫）
- ・毎時間の反省会で、各グループの反省や仕事の進み具合を発表するようにした。
- ・実行委員が活動の報告をして、『とみよう祭』に向けて、スムーズに準備活動ができるようにした。
- ・とみよう祭に向けて、プレ販売会をしたり、看板やゲームの準備をしたりして意欲を高めるようにした。
- ・「出来高表」を用意して、一日の活動を振り返るとともに、次の作業への意欲を高めた。

（2）日程計画（76時間）

月 日 (曜)	時 配	活動内容
9 / 28 (月)	1 時間	・導入集会（作業班発表）・作業導入
9 / 29 (火) ～ 10 / 1 (木)	6 時間	・作業工程の体験 ・各グループの担当発表
10 / 2 (金) ～本時 10 / 30 (金)	40 時間 (35・36 / 76 時間)	・製品作り（各グループに分かれて作業） （すし、ミキサー、紙すき）
11 / 4 (水) ～11 / 12 (木)	15 時間	・製品仕上げ ・販売会準備（ポスター作り、値札作り等）
11 / 13 (金)	4 時間	・プレ販売会
11 / 14 (土)	6 時間	・とみよう祭
11 / 17 (火)	2 時間	・片付け ・事後集会準備
11 / 18 (水)	2 時間	・事後集会 ・作業倉庫の整理

6 本時の指導

（1）本時の目標

- ・友達や教師とかかわりながら、製品を作ることができる。
- ・自分の作業内容が分かり、時間いっぱい取り組むことができる。

（2）展開（35・36時間目 / 76時間） 囲みは事例生徒の評価のポイント

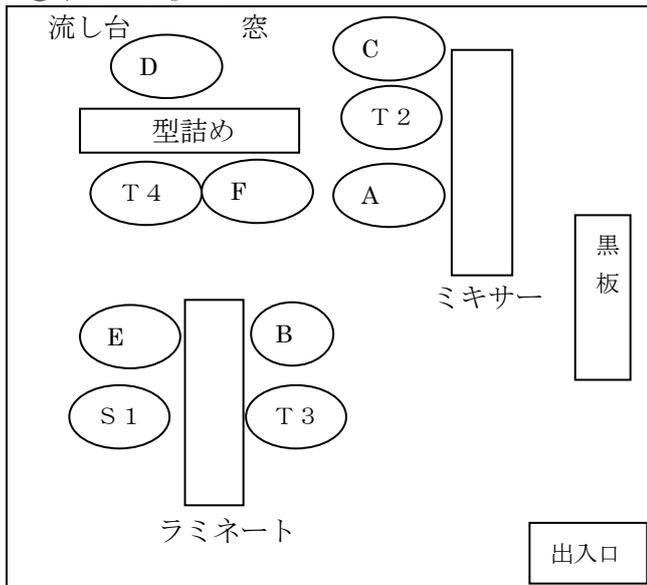
時配	生徒の活動	支援上の留意点	教材等
10分	○自分の顔写真カードを出席表ボードに貼り、連絡帳を所定の箱に入れる。 ○作業の準備（身支度）をする。	・準備をしやすいよう、倉庫の一定の場所に道具を保管する。（全T）	出席表ボード 顔写真カード
85分	○各教室へ移動し、作業を開始する。 ①『すしグループ』 〈ラミネートはがし〉（B、E） ・作業室から道具を持ってくる。 牛乳パックの入った容器→（C） パルプを入れる容器（白）→B ゴミ用バケツ→E	・作業用エプロンを付けているか確認する。（全T） ・自分の担当の道具を持ってくるように言葉がけをする。（T2・T3） ・作業室の奥にあるものは教師が手前で受け渡しをする。（T2・T3）	エプロン

	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックのラミネートをはがし、容器に分けて入れる。 <p>〈ミキサーがけ〉 (C、A)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業室から道具を持ってくる。 ミキサーの入った容器→A 延長コード→ (F) バケツ類→A タオル・タイマー→ (D) すし型→C 容器に入っているパルプと水を入れてミキサーにかける。 パルプをザルに入れる。 <ul style="list-style-type: none"> でき上がったパルプを次の工程に運ぶ。(C、A) <p>〈型詰め〉 (C、D、F)</p> <ul style="list-style-type: none"> ザルに入っているパルプをカップに分ける。 用意された型、全てに詰め込む。 <p>②『ミキサーグループ』</p> <p>〈ミキサーがけ〉 (G、H、I)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業室から道具を持ってくる。 ミキサーの入った容器→I 延長コード→G バケツ類→H タオル・タイマー→H 	<ul style="list-style-type: none"> パルプ用(白)とラミネート用(青)の容器を用意し、原料とゴミが分けられるようにする。(T2・T3) はがしやすくするために、予めラミネートの端の部分を少しはがしておく。(T2、S1) <ul style="list-style-type: none"> 担当の道具類を持ってくるように言葉かけをする。ミキサーの容器は、教師と一緒に運ぶようにする。(T2) <ul style="list-style-type: none"> 1回のパルプの量が分かるようにカップに分けて、1カゴに12カップずつ入れておく。(T3) ミキサーをかける時間が分かるように、30秒に設定したタイマーを用意する。(T3) 全部終わったら、型詰めに運ぶように話しておく。(T3) <ul style="list-style-type: none"> あらかじめ、型詰めする型をカゴに入れ倉庫に用意しておく。(T4) 型一個分のパルプが入るカップを用意しておく。(T4) 決められた位置にタオルを配置して、その上に型を並べる。(T4) 量や詰め具合を確認する。(T4) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>それぞれの作業内容が分かって、一定の時間内、続けて作業をしようとする様子がみられるか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 担当の道具類を持ってくるように言葉かけをする。また、ミキサーの容器は、教師と一緒に運ぶようにする。(T1) 	<p>容器(白) 容器(青) バケツ 牛乳パック</p> <p>カップ パルプ 計量カップ ミキサー タイマー ザル バケツ 延長コード タオル</p> <p>すし型 タオル パネル カップ</p> <p>カップ パルプ 計量カップ ミキサー タイマー</p>
--	---	--	--

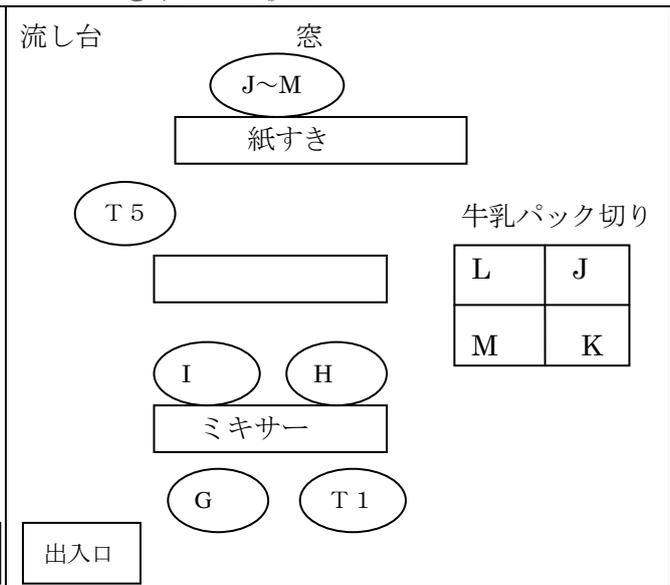
<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・容器に入っているパルプと水を入れてミキサーにかける。 ・パルプをザルに入れる。 <p>・でき上がったパルプを次の工程に運ぶ。(I)</p> <p>③『紙すきグループ』 (紙すき) (J、K、L、M)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業室から道具を持ってくる。紙すき道具一式を作業台にセットする。 ・分担表に従って「紙すき」「牛乳パック切り」の作業をする。 <p>○後片付け、掃除をする。</p> <p>○反省会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中2－3教室に集まる。 ・作業出来高表に記入する。 ・作業内容や反省などをグループの中で一人発表する。 ・次回の作業内容について知る。 ・班長が終わりのあいさつをする。 ・出席表ボードから顔写真カードをはがし、エプロンを所定の位置にかけて教室に戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回のパルプの量が分かるようにカップに分けて、1カゴに12カップずつ入れておく。(T1) ・タイマーを30秒に設定し、ミキサーをかける時間が分かるようにする。(T1) ・全部終わったら、紙すきに運ぶように話しておく。(T1) <ul style="list-style-type: none"> ・決められた位置に道具を配置しているか、教師が確認をする。違っている場合は配置写真を見て直すよう言葉がけをする。(T5) ・紙をすく前に良品・不良品の例示をし、気をつける点を確認する。(T5) ・すいている様子を観察し、間違っていたり不良品(穴、気泡、不均一な厚さ、ゴミ等)が出そうになったりした場合には注意を促す言葉がけをする。(T5) <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分で片付けられるように、道具の保管場所を一定にする。保管場所には道具の名前や材料のサンプルを明示する。(全T) <ul style="list-style-type: none"> ・本時の作業内容を振り返り、作業出来高表に記入するよう促す。(T1) ・取り組みの様子を確認したり、称賛したりする。(全T) ・見通しが持てるように次回の作業内容を伝える。(T1) 	<p>ザル バケツ 延長コード タオル 手順表</p> <p>とろ船 すき道具一式 バスタオル 乾燥台 パルプ液 配置写真 牛乳パック ハサミ スライドカッター トレイ 分担表 気をつけようカード</p> <p>清掃用具</p> <p>出来高表 筆記用具</p>
------------	---	---	---

(3) 場の設定

①中2-3教室



②中2-2教室



廊下

(4) 評価

- ・友達や教師とかかわりながら、製品を作ることができたか。
- ・自分の作業内容が分かり、時間いっぱい取り組むことができたか。

7 教材



線を引き、パルプと型をとったすしを並べるパネル



すしの型 (シャリ 5 個・ネタ 6 個の計 11 個)

8 生徒の様子、目標、手立て *太字は、活動グループ(担当の活動)を表す。

生徒名	本時までの様子	本時の目標	本時の手立て
A 1年男 すし	<ul style="list-style-type: none"> 耳をおさえながらも一枚ずつラミネートをはがすことができるが、作業時間いっぱいには続かない。 体調等の影響で不安定になることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒にミキサーがけをすることができる。 部分的にでも落ちついて作業をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は手本を示し、手順を説明し、気持ちを盛り上げる言葉がけをする。 本人の様子に合わせて椅子を置くなど落ち着ける場所を室内に作っておく。
B 1年男 すし	<ul style="list-style-type: none"> 疲れてくると席を立ってしまふことがある。 端がはがれたラミネートをはがすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座って作業をすることができる。 端がはがれたラミネートを80枚はがすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の目の前に牛乳パックを提示したり、名前を呼んだりして作業に意識が向くようにする。 できあがったパルプをパネルに並べ、できあがった数量が分かりやすいようにする。
C 1年女 すし 事例生徒	<ul style="list-style-type: none"> 初めてのことには、尻込みすることもあるが、ミキサーがけの手順はすぐに覚えることができた。 疲れてきたり、自信のないことを要求されたりすると動きが止まってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ラミネートはがし、ミキサーがけ、型詰めなど複数の作業が必要に応じてできる。 一定の時間まで作業をやりきることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人用のカゴを準備してカップ等を入れておき、一回一回の作業に見通しが持てるようにしておく。 調理など興味を持っていることや買ってもらう家族のことなどを話し、意欲を高める。
D 2年男 すし	<ul style="list-style-type: none"> パルプをすし型に詰めることができる。 集中力が切れると、椅子に座っていられなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> すしの型を選んで、水をしっかり抜きながら、パルプを詰めることができる。 椅子に座って作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標数が視覚的に分かるようにする。 行きたい場所の写真カードを用意しておき、休憩の時に伝える。
E 3年男 すし	<ul style="list-style-type: none"> 端がはがれたラミネートを40枚はがすことができる。 集中力が切れてくると動作が止まってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 端がはがれたラミネートを50枚はがすことができる。 一定の時間まで作業をやりきることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> はがせないときに教師の肩を叩き、手伝ってほしいことを伝えることができる。 作業に不要な物を棚の中に片付け、集中しやすい環境を作る。
F 3年男 すし	<ul style="list-style-type: none"> パルプをすし型に詰めることができる。 作業の手順を覚えると、進んで仕事に取り組むことができるが、集中力が切れてくると離席することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 終わったときには教師に声をかけることができる。 作業に集中して取り組み、離席せずに最後まで活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標数が視覚的に分かるようにする。 周囲の様子を気にしている様子が見られた場合は、手元に集中するように言葉がけをする。
G 1年女 ミキサー	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の手順は大体覚えているが、タイマーの工程を忘れて進めることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全工程を間違えずにミキサーがけをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表を用意し一緒に仕事をしながら、「がんばろう」などと言葉がけをする。

	<ul style="list-style-type: none"> 一人で1日5カップのミキサーがけをしているが、教師の確認が必要な時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に7カップのミキサーがけができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1日分のカップを用意し、今日する作業を確認したり、途中で手本を示したりする。
H 2年 女 ミキサー	<ul style="list-style-type: none"> 手順は大分理解してきたが、途中で手順を忘れ手が止まることもある。 1日10カップのミキサーがけができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順通りにミキサーがけができる。 1日12カップのミキサーがけができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表を用意して、仕事が分かりやすいようにする。 今日の目標数をカゴに入れて用意したり、励ましたりする。
I 3年 男 ミキサー	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の手順は覚えてきたが、時々、集中できずに一部の工程を忘れて進めることがある。 1日10カップのミキサーがけができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間いっぱい作業に取り組むことができる。 1日12カップのミキサーがけができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表を用意したり、一緒に仕事をしたりして、手本を示す。 1日分の目標数をカゴに入れて用意しておく。
J 1年 男 紙すき	<ul style="list-style-type: none"> 工程の理解が比較的早く、手順どおりに作業をしようとするが、気泡が抜けきれずにしわができてしまう場合がある。 周りの友達の行動が気になり、作業に集中できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 気泡を抜く工程を丁寧に言い、きれいな紙をすくことができる。 自分の手元を良く見て、集中して作業に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> しっかりと力が加わるよう、「1・2・3」と数えながら十分な時間気泡抜きをするよう約束をする。 周りが気になっている様子の時には、「手元を見ないと失敗してしまいますよ」と言葉がけをする。
K 2年 女 紙すき	<ul style="list-style-type: none"> 工程を理解することができ、1人で作業をすることができるが、自信が無いのか教師に確認をすることがよくある。 大まかな準備はできるが、道具や材料の補充に自信がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい手順で、きれいな紙をすくことができる。 自分の分担に必要な道具・材料を準備することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 忘れがちな工程を「気をつけようカード」で提示し、正しい工程ですくことができるようにする。 道具・材料の保管場所を決めておき、一人で準備できるようにする。
L 3年 男 紙すき	<ul style="list-style-type: none"> 工程の理解が早く、細かな注意点などにも気を配りながら作業をすることができる。 友達の行動が気になり、やや強めの口調で話しかけたり注意したりしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 所属するグループ全体の進捗状況を理解し、不足している材料の補充や工程の手伝いを行うことができる。 自分の作業に集中して作業を進め、友達の行動が気になった時には教師に相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の動きが見えるよう座席を向かい合わせにし、グループの動きが見えるように配慮する。 本人の言い分を良く聞いて受け入れつつ、皆が同じように作業をすることができないことも説明していく。
M 3年 男 紙すき	<ul style="list-style-type: none"> 覚えた工程は忘れずに行うことができるが、一つの工程が終了すると手が止まることもある。 分からないことがある時に、すぐに教師に確認することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙すきから乾燥棚への紙の移動までをスムーズに行うことができる。 分からないことがある場合に、教師に質問したり確認したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手が止まっている状態の時は、「次に進みます」と言葉がけをする。 分からない様子の時には、「どうしましたか？」と問いかける。

6 まとめと今後の課題

〔園芸班〕

(1) 作業学習を進める上で工夫したこと

活動内容

- ・生徒の作業量の確保と効率を考慮し、昨年度の4グループから、花グループ、鉢グループ、土・油かすグループの3グループに変更した。また、土・油かすグループで作った培養土を、鉢グループで作った鉢に入れ、その鉢に花を植え、全てのグループで一つの製品を作るようにした。
- ・個々の仕事の定着と技術力向上を図るため、花や土の肥料などを多く発注した。
- ・月～木曜日にビニールハウス内で行うミニ反省会、金曜日に中学部ホールで行う大反省会という振り返りの機会を設けた。ミニ反省会では、一体感をもつために、各グループがどのような作業内容を行っているか、製品ができ上がっているかの経過報告を中心に具体物を提示して共有した。大反省会では、生徒の意欲向上のために、今週は何個できたかなどの達成状況の報告を中心とした。

場の設定

- ・道具の片付け場所を分かりやすくするために、スコップ立てや目印を配置し、場所を指定した。
- ・花の成長に合わせて、日の光を調整するために、ビニールハウスに遮光をつけた。

教材教具

- ・鉢グループで使用したのこぎりとなたには、安全面を考慮し、カバーをつけて、生徒に刃先が当たることのないようにした。
- ・油かすを容器に詰める時に、生徒の力でも詰めやすいようにする補助具を準備した。
- ・油かすの乾燥台に、ビニールのカーテンを付けたことで、雨を防ぐことができ、早く乾燥できるようにした。
- ・土づくりで使用する肥料の置き場所を分かりやすくするために、肥料の容器と同じ色の木の枠を作り、目印とした。

(2) 成果と今後の課題

① 成果

- ・昨年度までは種から花を育てていたが、今年はプラグ苗から育てることにしたことで花の成長が平均的になり、安定して生徒の仕事量を確保することができた。さらに、花が丈夫に育ったことで手入れもしやすかった。また、花の出来栄も良く、売り上げ向上に繋がった。
- ・乾燥に時間がかかる油かす作りを作業期間の序盤にしたことや、日中は日の当たる場所に、夜間は雨や霜よけ対策のため乾燥台に移動し、天候に合わせて調節したことで生産量の確保ができた。
- ・生徒の興味関心のあることと結びつけた作業内容（例：土遊びの好きな生徒が土運びを担当する）を考えたことで、その場を離れてしまうことが減り、作業学習に取り組むことができた。

② 課題

- ・細かい作業が苦手な生徒がいても、一人で行える作業内容や補助具の工夫を今後も考えていく必要がある。
- ・今年度は天候に恵まれ、花の成長が良かったが、天候が悪い時にどうすれば良い花が育つか、また、新しい鉢製品を今後継続して考えていく必要がある。

〔紙工班〕

(1) 作業学習を進める上で工夫したこと

活動内容

- ・単元の最初は作業の導入として、すべての生徒がすべての工程を体験し、紙作りの全体の流れが理解できるようにした。
- ・生徒が得意な活動や興味のある活動を工程とし、自信を持って取り組めるようにした。
- ・毎日同じ仕事をし、繰り返すことにより見通しが持てるようにした。
- ・生徒が時間いっぱい仕事に取り組めるように作業量を確保した。

場の設定

- ・前期作業（とみよう祭単元）の前に倉庫内の配置を変え、道具の保管場所を工夫し、生徒が進んで準備や作業に取り組める状況を作った。
- ・生徒全員が一体感が持てるように、自分で作ったものを次の工程に運ぶようにした。また、その日に作った製品を完成品ラックに陳列し、出来高や在庫数をみんなで確認し合えるようにした。

教材教具

- ・自分から作業に取りかかり、進められるように仕事の手順表を用意した。
- ・扱いやすい道具類を使用し、安全に作業ができるようにした。
- ・「出来高表」を用意して、一日の活動を振り返るとともに、次の作業への意欲を高めた。
- ・新製品の開発（うちわなど）にあたっては、インターネットで情報の収集をした。

単元を盛り上げる工夫

- ・毎時間の反省会で、各グループの反省・仕事の進み具合を発表するようにした。
- ・実行委員が活動の報告をして「とみよう祭」に向けて、スムーズに準備活動ができるようにした。

(2) 成果と今後の課題

- ・各グループの使用する道具を文字とビニールテープで色分けしてまとめたことにより、生徒にとって分かりやすくなった。
- ・昨年のイオン販売会で①すしマグネットと②うちわを販売した。今年度は製品をこの2種類に絞り、より多くの生徒で最終的な加工をすることにより、「できた」という達成感や作業への見通しを持つことができた。
- ・すしグループでは、ミキサーを2台にして仕事の量を増やした。工程も多種あるため、生徒の適性に合わせて活動が用意できた。
- ・とみよう祭に向けて、生徒と一緒に店の名前を考えたり、看板を作製したりした。また、販売の際に使う帽子を作ったことで、生徒にやる気が出て、意欲を高めることができた。
- ・ミキサーの水の量のばらつきがあるので、補助具の工夫をしていきたい。水の垂れた床などへの配慮をしていきたい。
- ・すしの成形は、指で行うよりも押し型があると均等に水分を押せると考えられるので、補助具の作製に着手したい。
- ・紙すきで、身長差のある生徒に対する道具の高さを生徒が仕事を進めやすいように改善したい。
- ・新製品は、“日本文化を感じることができる和風のもの”を基本とすることから、ランチョンマットや箸置きなど、その他の情報を集めて検討していきたい。
- ・作業の終わりの会は言葉だけでなく、その日成果を具体物で示すなど、分かるように工夫していきたい。出来高表の工夫にも努めていきたい。

[カレンダー班]

(1) 作業学習を進める上で工夫したこと

活動内容

- ・生産数と質の確保のため、製品を貼り絵カレンダーに一本化した。また、貼り絵のパーツには一部加工済みの素材を使用した。
- ・切る、貼る、抜くなどの生徒に分かりやすい活動を多く取り入れた。
- ・一人一つカゴを用意し、その日に使用する材料や道具を入れ、カゴの中を見れば活動内容や量を自分で確認できるようにした。
- ・自分で考えて文章を書くことができる生徒には、作業日報にその日の活動内容と次時の目標を記入する時間を設け、活動の振り返りに役立てた。

場の設定

- ・生徒全員が一体感を持てるように、教室の間仕切りを取り、一つの空間で作業を行った。
- ・完成棚を用意し、完成した物の保管場所を統一した。
- ・4つある教室の扉の中から、使用する扉を2つに限定し、棚から作業台までの動線を整理した。

教材教具

- ・紙を直線に切ることが難しい生徒には、はさみの固定台やスライドカッターを用意した。
- ・接着をする時には、液体のり、スティックのり、両面テープ、ボンド、ホットボンドなどの中から生徒の実態を考えて使用する道具を選択した。
- ・クラフトパンチを使って型を抜く活動では、型を抜きやすい厚さの紙を用意した。また、紙はあらかじめ扱いやすい形に教師がカットし、生徒が一人で取り組めるようにした。

(2) 成果と今後の課題

- ・昨年度よりも、細かい作業が苦手な生徒が多いため、一部加工済みのパーツを使用した。このことにより、加工済みパーツを台紙に貼りつける活動が新たに増え、細かい作業が難しい生徒にも対応することができた。
- ・出来映えや製品の生産効率も向上したが、原材料費がかさんでしまい、予算との兼ね合いで生産数を増やすことにはつながらなかった。今後は、細かい作業が苦手な生徒でも作成できるパーツを考え、生徒の活動の種類や生産数を増やしていきたいと考える。
- ・紙を切る活動では、生徒の実態に合う道具を用意した。はさみで紙をまっすぐに切ることが難しい生徒は、はさみの固定台を使用したことで直線に切ることができた。しかし、切り取り線から切断箇所がずれてしまうこともあったため、より正確に作業ができるよう補助具などを改善していきたい。
- ・指先に力が入りにくい生徒にはスライドカッターを用意した。スライドカッターに紙をセットするためのガイドを付けたことで、教師の支援がなくても正しい大きさに紙を切ることができた。
- ・貼り付ける活動では、細かい作業が難しい生徒に対しては両面テープを用意した。剥離紙の端を教師があらかじめ折っておくことで、生徒に剥がす箇所を分かりやすく伝えることができ、生徒が自分から手を伸ばすことも多く見られた。

〔木工班〕

(1) 作業学習を進める上で工夫したこと

活動内容

- ・ニーズに合った活動内容が準備できるように、製品の種類を増やし作業工程の幅を広げた。
- ・できるだけ生徒の力によって製作を進めていけるように、製品によっては、原材料の採寸から製品の組み立てまでの一連の工程を任せられるようにした。
- ・個々の実態に合わせた活動を担当し、1日の作業内容を授業開始時に個々に合わせてスケジュールカードで伝えたり、生徒と一緒に木材を見ながら確認したりするなど、何をどれくらい行うかを把握できるようにした。また、休憩時間と作業時間も分かるように、目標個数や時間を具体的に提示した。

場の設定

- ・生徒全員が製作している製品を知り、興味をもてるように、終わりの会で紹介したり、完成品ラックに陳列したりした。また、一体感が持てるように、材料や部品を次の工程の生徒に運ぶようにした。
- ・繋がっている一連の作業工程をできるだけ近くで作業できるように机や椅子の配置を工夫した。
- ・個々の実態に合わせて休憩場所と作業室を分けるようにした。

教材教具

- ・扱いやすい素材を使用することで、作業がスムーズ、且つ、安全にできるようにした。
- ・一つ一つの工程を生徒自身で作業ができるように補助具を作製した。

(2) 成果と今後の課題

- ・作業工程を増やすことにより、入れる、切る、貼る等の簡単な活動から採寸や組み立て等の難しい活動まで作業工程の幅が広がり、一人一人に合った活動内容ができるようになった。
- ・製品づくりの最初から最後まで工程に携わることで、製品の完成していく様子が分かりやすくなり、製作活動への意欲につながった。
- ・1日の作業全体の流れと、細かな休憩時間の取り方の2点に焦点化して具体的にスケジュールを提示することで、目標に向かって取り組める生徒が増えた。しかし、量産面での目標提示が弱いので、今後は振り返りシートや出来高表等を使って量産への意識を高めていきたい。
- ・自分で作ったものを次の工程に運ぶことで、自分の分担だけでなく、他の工程との結びつきに気づけたり、他の工程に興味を持ったりすることができた。また、完成した製品を陳列することで、自分の作った製品への関心を高めることができ、次への意欲づけとなった。
- ・繋がっている一連の工程を近くで行うことで、できたパーツのやり取りを生徒同士で行うような関わりが増え、友だちと物や時間を共有できる場面を増やすことができた。
- ・活動時間と休憩時間の場所を大きく分けることでスケジュール把握をする上での混乱を避けることができた。
- ・製品によって、材料の大きさを変えることで握りやすさや安定感の改善ができ、スムーズに取り組めるようになった。

〔中学部全体〕

今年度、中学部では「生徒一人一人が得意なこと・好きなことを生かした活動を考えたり、特性や能力に応じたグループ作りをして作業を進めたりすることは、多様化に対応した授業作りを意識したものとなるのではないか」という考えのもと、作業学習を題材として取り上げ、分かりやすい授業作りについて研究を進めた。

1年間の成果と課題については、既に各作業班ごとのまとめで述べられているとおりであるが、改めて観点別の成果や課題について述べてみたい。

活動内容

多くの班が製品の再考に取り組んだ。それらは必ずしも一様ではなく、製品の種類を増やすことで作業工程の幅を広げ、多様な生徒に対応するようにした木工班、製品の種類を減らし工程を複数担当することで多くの生徒が完成まで関わるようにした紙工班、同じく製品を減らして工程を細分化し生徒に分かりやすく取り組みやすい活動を多く取り入れたカレンダー班など、班により異なっている。これまで「伝統的」に製作されてきた製品をあえて無くし、「はじめに製品ありき」（こういう製品があるからこういう工程を）ではなく、「生徒の持っている力を最大限に生かし、生徒の力で作ることでできる製品を考えた」（所属する生徒はこういう活動ができるからこういう製品がしてくれるのでは）という観点が見られたことは、大いに評価できる点であろう。

また、日々の反省会についてそれぞれの班が工夫を凝らし、その日の活動や出来高だけでなく、次回の目標を考える時間を設けたカレンダー班、通常の反省会のほか、週末に行う大反省会（報告会）を設けて情報を共有した園芸班のような例も見られた。

場の設定

たとえ工程が細分化されていても、作業班としての一体感を感じることができるよう作業室の間仕切りを極力減らし「同一視野の原理」を意識した配置を心がけたカレンダー班や紙工班、材料を次の工程へ運ぶことで仲間とのつながり・工程のつながりを意識することができるようにした木工班、紙工班など工夫が見られた。

また、全ての班が生徒一人一人の専用工具・材料を個別の収納箱に用意し、倉庫や保管場所を整理して自分で準備・後片付けができるようにしたり、完成品の保管場所を工夫し、全員が見て確認できる場所・棚などを用意し、出来高表と連携させながら達成感や意欲付けを行ったりした。

教材教具

生徒が自分の力で作り上げる達成感を味わえるようにとの観点から、各班が創意工夫を凝らした補助具の開発・作製に着手した。扱いやすさはもちろんのこと、安全に作業を進めることができる（安心して取り組むことができる）補助具を作製していた。

また、材料の大きさ、加工のしやすさなどを考慮し、これまで取り扱っていた材料を大幅に見直した木工班やカレンダー班のような取り組みも見られた。

○授業研究会

部内研究会では作業班ごとのグループディスカッションを実施した。一人一人の生徒の様子について、担当する工程が適切であるか、扱っている道具は適しているのか、目標の設定は分かりやすくなっているかなど、具体的な議論をすることができた。

また、講師の先生からは、生徒が見通しを持って取り組むことができるようにするためには、材料の準備（授業ごとの準備ではなく、場合によっては材料の発注）から販売までの一連の流れにできる限り生徒が関わったほうがよい、生徒によって目標を意識できる長さ（授業ごとの目標から単元の目標まで）が異なるので、適切な目標を一人一人に設定することが必要、どのような障害・特性があっても必ず活躍できる場面や活動があるので教員がしっかりと実力を発揮できる環境を作ることが大切などの助言をいただいた。

全校研究会では小・中・高等部の教員が混在するグループを作成し「活動を分かりやすくする工夫について」や「新しい製品作りのヒント」などについて議論を進めた。議論を進めやすくするために、「今の授業をさらに分かりやすくするためにはどのようにすればよいのか」「紙工班として新たな製品を作るとすればどのようなものが考えられるか」など、具体的なテーマを設けて話し合いをした。他学部の教員から、「衛生面に気を付けるような服装を心がけてみては」「伝統的に作製してきた製品と新製品を共存させる方法もあるのでは」など有用な意見を多く提供していただいたほか、講師の先生からも MT と ST の役割意識を明確にすること、待ち時間を有効に活用すること（機械を作動させ、待っている間の活動）、固定概念にとらわれず「始まりの会」と「終わりの会」を全ての生徒が関われる機会とすることなど、数々の助言をいただくことができた。

25・26年度と作業学習を題材にして研究を進め、研究テーマを変えながらも引き続き作業学習を通じた授業の在り方を探ってきた。今年度は、教員一人一人が作業学習について改めて考え、より「分かりやすい授業」とするために日々研鑽を積むきっかけとなった。次年度においては、教育課程の見直しにより作業学習の期間や単元構成が大きく変わる事となるため、不変的である部分と変化させていくべき部分を精査し、生徒一人一人が活躍できる場面を設けるための研究・授業作りを進めていきたいと考えている。